

# ネットワークの中立性について

平成18年12月19日

富士通株式会社

ネットワークサービス事業本部 齊藤 力

- 1 . ネットワークの中立性議論に対する基本認識
- 2 . ネットワークへのリクワイヤメント
  - 2.1 個人ユーザのネットワーク利用ニーズ
  - 2.2 企業ユーザのネットワーク利用ニーズ
- 3 . ネットワークの中立性に関して検討すべき項目

# 1. ネットワークの中立性議論に対する基本認識

## ■ 市場環境の変化

- ネットワーク活用形態の変化（P2P、CGM等）
- ネットワーク活用機能の進展（SaaS等）

具体的  
政策に  
反映

## ■ ネットワークの中立性に関する3原則

コンテンツ・アプリケーションレイヤーへの自由なアクセス

端末接続の自由、端末間通信の自由

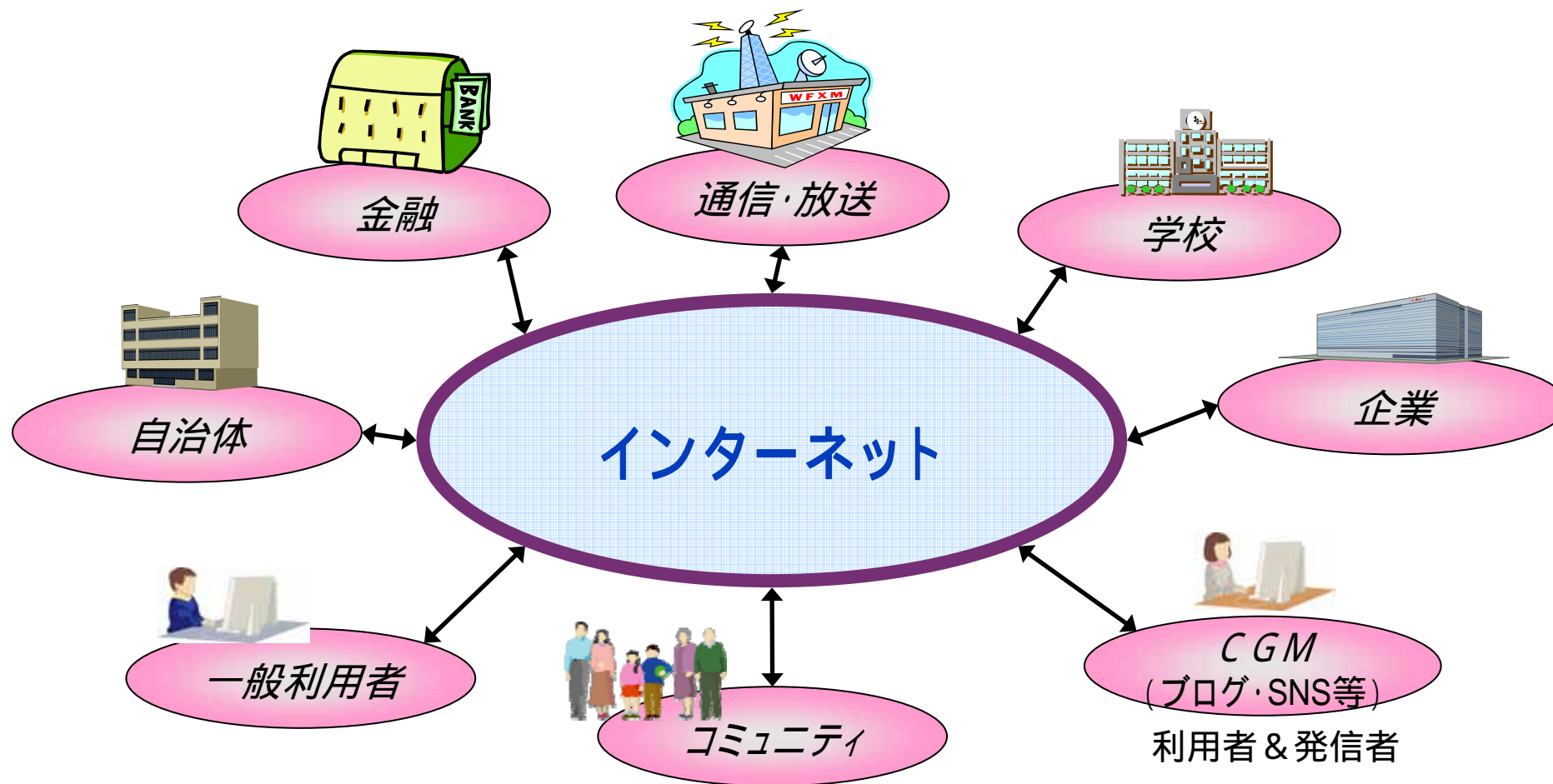
適正な対価での、通信レイヤー・プラットフォームレイヤーの公平な利用

## ■ ICT産業の更なる発展

- 新たなサービス・市場の創出
- 利用者の拡大
- 世界へ発信可能なコンテンツ、サービスの拡大

## 2. ネットワークへのリクワイヤメント

ネットワークの利用場面・目的は多様化



誰でも「安価に」、「快適に」、「公平に」ネットワークを使いたい

## 2.1 個人ユーザのネットワーク利用ニーズ

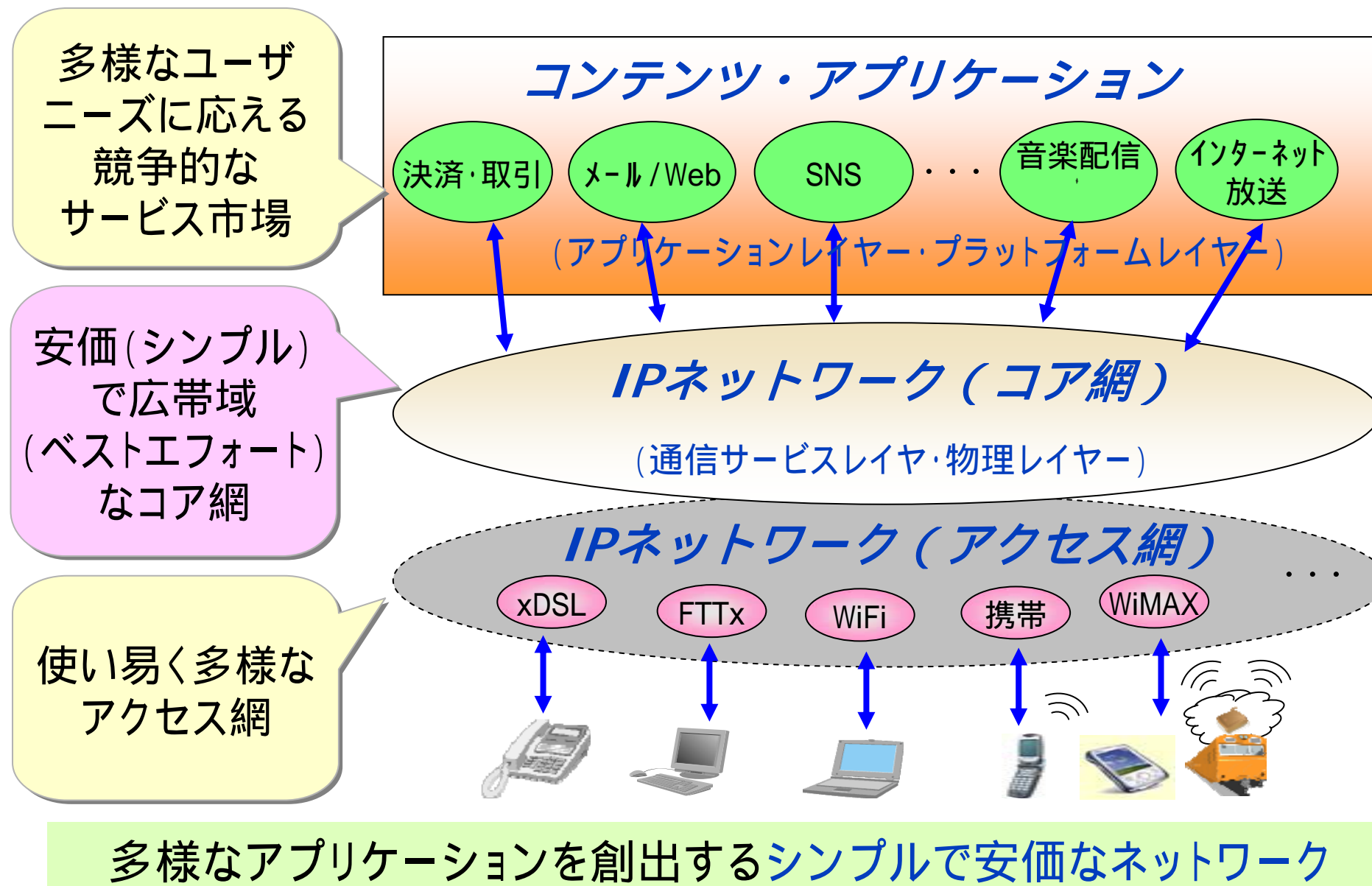
### ■ 個人ユーザ視点では、3つの要素が特に重要

- 「安価に」: 誰もが極力安価に利用できる
- 「快適に」: 誰もがリッチコンテンツ等を快適に利用できる
- 「公平に」: 誰もが公平な条件で利用できる

### ■ ユーザニーズを満たすネットワークの構築のためには、「利用の公平性」、「コスト負担の公平性」のみならず、『インフラコストの低減を推進する議論』が必要ではないか？

- 物理レイヤー、通信サービスレイヤーがビジネスとして回りつつ、利用者には極力安価に提供されることが重要
- 利用者視点では、「空気」のように意識せずに自由に使えることが理想

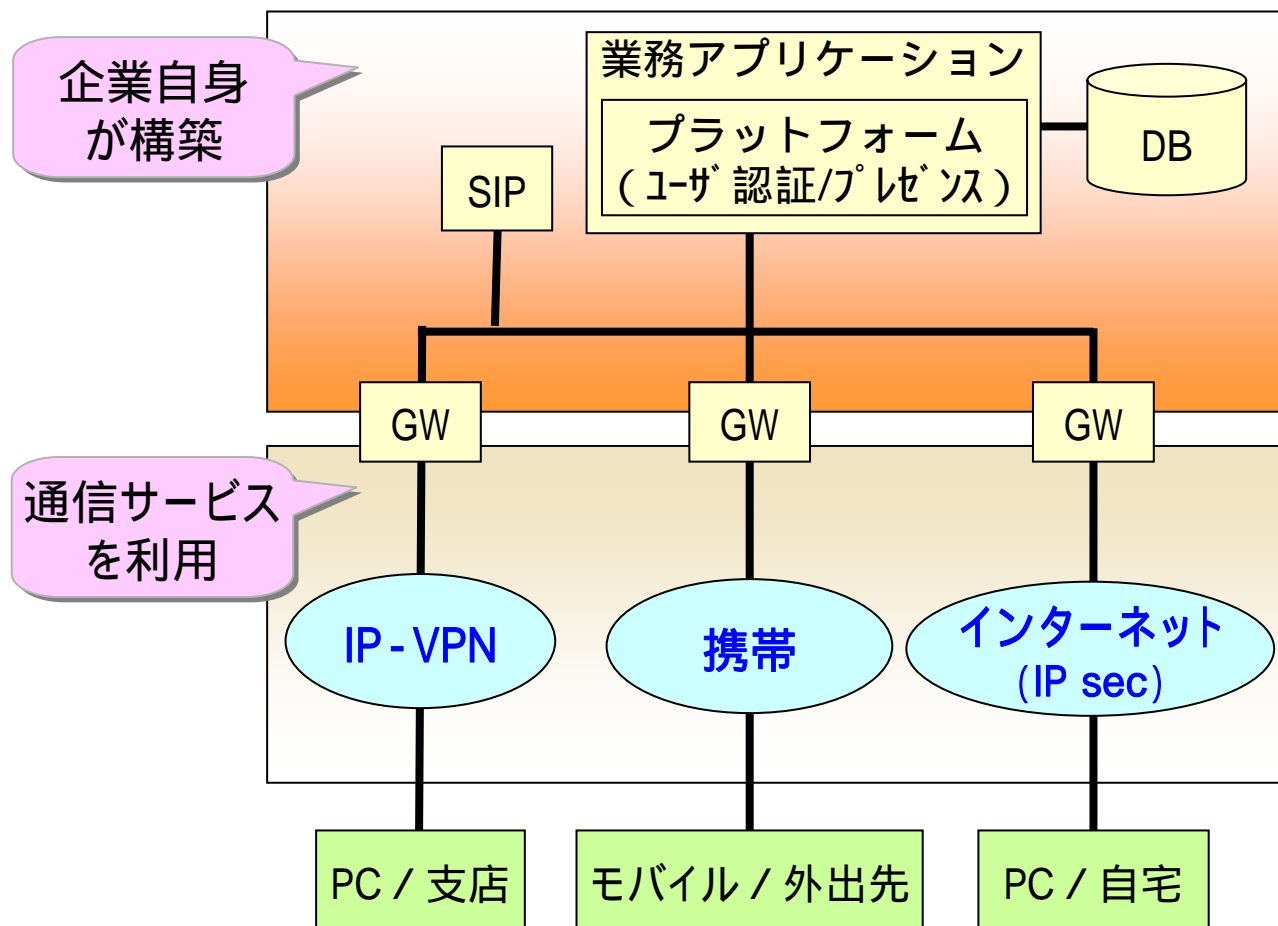
## 2.1 個人ユーザのネットワーク利用ニーズ



## 2.2 企業ユーザのネットワーク利用ニーズ

### 企業における(基幹的)ネットワーク利用

### 企業ニーズ



#### アプリケーション・サービス

- セキュリティ
  - 利用者情報は自社管理
- カスタマイズの自由度
  - プラットフォーム機能を自社で持つケースも

#### ネットワーク

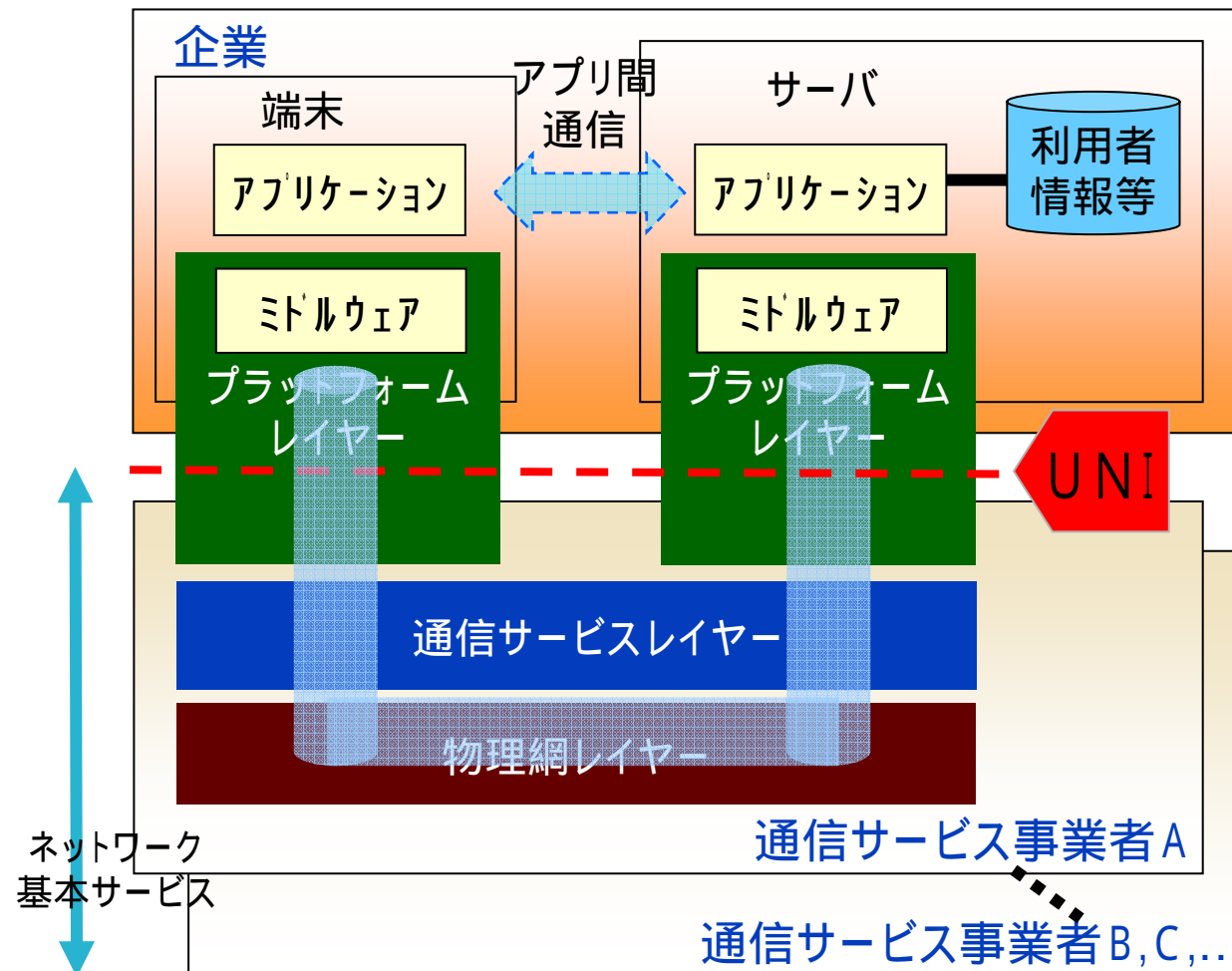
- セキュリティ(閉域性)
- 高信頼性・安定性
- 帯域保証  
(適正な料金で)

業務を支えるセキュアで高信頼で安定したネットワーク

## 2.2 企業ユーザのネットワーク利用ニーズ

### 企業のネットワーク利用モデル

企業向けネットワークには  
5つの視点が重要



- 高信頼性・安定性
- セキュリティの確保
  - 利用者情報は自社管理
  - クローズなネットワーク
- 帯域保証
  - 必要帯域の確保
- 適正な料金
  - 企業は応分の負担
  - 事業者間競争が必要
- UNIのオープン性
  - カスタマイズ可能なインタフェースの提供 (プラットフォーム機能を自社で持つケースに対応)

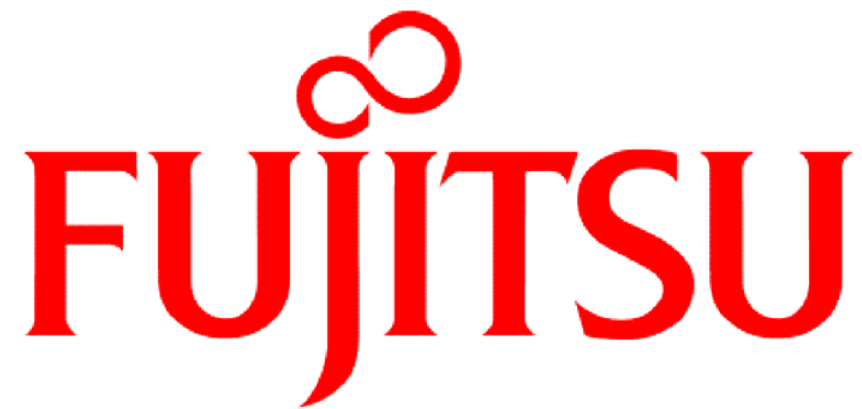
企業ニーズを満たすためには、アプリケーションとネットワークの役割分担が必要

#### ■ インフラコストの継続的な低減の推進

- インフラビジネスの成立を前提としつつ、利用者のコスト負担ができるだけ増えないネットワークの実現に向け、政府、ベンダー、通信事業者が努力
- プラットフォームレイヤーやアプリケーションレイヤーでの多様な競争により、新たなサービス・市場を創出

#### ■ 企業ユーザのネットワークニーズの実現

- ネットワーク基本サービス機能の明確化
  - オープンインタフェース(UNI)の検討
- 様々なサービスの創出促進
  - 安全・信頼性対策(事業継続(BC)、ディザスターリカバリー)、等
- 適正価格でのユーザ提供
  - 品質保証型サービス、オンデマンド型サービス等



THE POSSIBILITIES ARE INFINITE